

生涯学習・社会教育関係職員研修講座【三八地区研修】

令和6年9月27日(金)13:30～15:40 五戸町立公民館 受講者28名

1 内容

【テーマ】地域を活性化させるためのつながりづくり

【講師】弘前大学 教育学部

准教授 こしむら やすひで
越村 康英 氏



【経歴】

2001年度から11年間にわたり、東京都大田区および北区の教育委員会で社会教育指導員として勤務し、その間、区民大学、日本語教育、家庭教育学級、ジュニアリーダー研修会といった多岐にわたるプロジェクトを担当した。

現在は、2020年10月から弘前大学教育学部の准教授として活躍する傍ら、青森県生涯学習審議会委員や青森県社会教育委員、弘前市社会教育委員としても任命されており、青森県社会教育推進に尽力している。

【講義要旨】

- 「地域づくり」とは、住民の日常生活が、より心地よく、より豊かで、持続可能なものになるように「変える」活動のことです。「地域づくり」では、地域課題の解決や住民の主体形成（住民自治）が鍵となりますが、その土台となるのが「人と人とのつながり」です。
- 「つながりづくり」のハブとして、公民館の果たす役割が重要です。公民館の日常的な取り組み（事業公民館活動）の積み重ねが、人と人をつなぎ、「地域づくり」という点でも大きな力となるのです。
- 「学校を核とした地域づくり」とは、子どもも含めて住民が豊かにつながり、地域に教育力を取り戻し、活力のある持続可能な地域を実現するための活動を指します。学校運営協議会や地域学校協働活動推進員の制度を活かして、学校と地域を結び、柔軟な発想で多彩な地域学校協働活動を構想しながら「学校を核とした地域づくり」を進めることが求められています。
- 「社会教育を基盤とした人づくり、つながりづくり、地域づくり」を進めるうえで、社会教育行政職員や公民館職員への期待が高まっています。また、社会教育行政や公民館に住民の声を反映させていくために、社会教育委員の存在がますます重要になっています。

2 受講者の感想

- ・地域づくりに公民館が大きな役割を果たすことを再認識しました。また、つながりづくりのハブとしても重要になっているので、もっと多様的に利用・活用されるよう活動していきたいです。
- ・コミュニティ・スクールについて、講義の中での説明で明確になりました。学校と地域、行政と地域の協働等、難しい点が多々ありますが、取り組んでいきたいと思います。
- ・行政ではなく、地域主体で活動を起こすには、公民館での活動のつながりが重要になってくることを知りました。また、学校と地域のつながりについては、難しいところもあると思いますが、本音での協議を重ねることで、お互いに納得した結果が出るのではないかと思います。